平成２５年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研　究　種　目：一般研究

研究代表者：鹿島　薫（九州大学理学研究院・准教授）

研究分担者：安福　規之（九州大学工学研究院・教授）、福本　侑（九州大学理学研究院・大学院生）、ガンゾリック　ウルギイチメック（モンゴル科学院地理学研究所・研究員）

研究題目（和文）：
地形および土壌環境解析を用いたモンゴル・ゴビ砂漠における風成塵（黄砂）の長期的変動の復元

研究概要（和文）：
風成塵（黄砂）の変動を議論する場合、その起源となる泥質な堆積物の分布変動がひとつの重要な要素となる。泥質堆積物の起源として最も一般的なものは、河川などの氾濫堆積物であるが、乾燥地の場合それらは現在の気候下ではなく、数十年から数百年時には数千年といった長期的な気候変動による、過去の多雨期に堆積されたものである可能性がある。

本研究では、ゴビ砂漠、特にモンゴル砂漠ステップにある鳥取大の黄砂発生観測地点付近について、地形および土壌調査を行い、細粒な泥質堆積物の分布とその起源・堆積環境を明らかとする。これによって、風成塵（黄砂）の変動の地形土壌学的背景を明らかと刷るだけではなく、より長期的な風成塵（黄砂）変動の復元を行うことができる。

25 年度は、8 月 24 日から 9 月 5 日までモンゴルに渡航した。研究経費はその渡航旅費に使用した。鳥取大学の観測装置が設置されている、ツォクトオボーおよびバヤンウンジュールにおける土壌調査を、モンゴル科学院地理学研究所と共同で行った。さらにツォクトオボーの西方に位置するウラアン湖において湖水位変動に関する予察調査を行った。これらの成果から、モンゴル・ゴビ砂漠における風成塵（黄砂）の長期的変動の復元に関する基礎資料の収集、および風成塵（黄砂）の供給源となる、過去の地質時代の河川湖沼堆積物の分布について、明らかとすることができた。その成果は 12 月の成果発表会で報告した。